



SVOOとSVC

第46号「日本の色彩語」で引用した『日本語の謎を解く』（橋本陽介、新潮選書）に、英語関係の面白い話があったので紹介しよう。よく英語で、態を書きかえたり（受動態→能動態→受動態とか）、文型（構文）を書きかえたり（SVOO→SVCとか）することがあると思う。しかし、その書きかえられた文は、元の文と同じ「意味」なのか？ということ橋本先生は話題にしている。

*

しかし、書き換えた文というのは本当に同じ意味なのでしょう。そうではない、という考え方もあります。この考え方に立てば、構文が変われば必ず意味も変わってしまいます。例えば、次の二つを見てください。

Taro taught her English.

Taro taught English to her.

どちらも、「太郎が彼女に英語を教えた」という意味であり、論理的な言語観に立てば「同じ意味」とされる二つの構文です。しかし、この二つは必ずしも同じではありません。前者では、「彼女に英語を教えた（そして彼女は英語ができるようになった）」というニュアンスがあるのに対して、後者は単に教えただけであり、彼女は太郎の授業を一切聞いていなかったかもしれません。これは、her（彼女）が動詞の直後に目的語として置かれる場合、強くその動作が作用すると読まれるので、その結果も達成されたイメージになるのに対して、toを使った形は、単に動作の方向を表しているだけになるからです。

*

「へ～え、なるほど」という感じがしないでもないが、こういうことは英語の時間に習

ったのだろうか？（学級日誌の記事によれば、数週間前に英表で「態」をやっていたように記憶するが…）。ちなみに、私の主人も英語の教員なので、「そうなんですか？」と聞いてみたが首をひねっていた。前後の文脈がないと、そうはっきり言えるものかどうか、ちょっと明言することは難しい気がするというのが、私もどちらかという主人の意見に賛成である（反対すると恐いから…笑）。

さて、もうちょっと続きがあるから、引用しておこう。まずは例が挙がっているので、違いを自分なりに考えてみよう。

*

Hanako baked Taro a cake.

Hanako baked a cake for Taro.

両方とも「花子が太郎にケーキを焼いた」という意味ですが、bakeの直後にTaroがくると、太郎にケーキが渡されたこととなります。後者はただ太郎のためにケーキを焼いただけであり、それを渡す前に次郎に食べられてしまったかもしれません。（中略）

言語というものは、最初に意味があって、それを実際の場で用いるものではありません。まず実際の場があって、そこで使われることによってはじめて意味が生じます。つまり、「意味」とは、実際に数多く使われた言葉を後から吟味して抽出したものなのです。そう考えれば、複数の構文があるときに、そこに何らかの意味の違いがあるはずだと考えるべきだと思います。

*

例文の説明はどうも???な気がするが、結論には関しては私も賛成である。